



旅館協同組合のサポートで21基の充電器を完備。 日本屈指のエコ温泉地へ

伊香保温泉

群馬県



石碓の街・伊香保温泉では、移動の利便性向上が重要。小回りの車(EV)利用はメリットが大きい。現在、温泉旅館協同組合と伊香保温泉観光協会の協賛で、EVの導入が決定している。EVのカーシェアリング事業も検討されている。

補助金活用と組合の援助で 20軒の旅館が導入

郡心から2時間圏内に位置する伊香保温泉では、2013年10月全50軒中20軒の旅館が普通充電器を二斉導入した。平成25年度内に四角自動車道のS・A・P・Aの7箇所で、新た

に急速充電器の設置が決定されたことを受け、EV利用者のさらなる利便性アップを図るため、伊香保温泉旅館同組合などのバックアップを通じ、各旅館の負担を軽減することを実現したという。

「既にビジターセンターで1基導入していましたが、購入費に加えて

工事費にも補助金が支給されるこのチャンスを生かそうと、伊香保温泉全体で取り組みました。今後は、行政とも連携しながら、温泉地までの導線確保を目指し、インフラの拡大を積極的に推進していきます(伊香保温泉旅館協同組合理事長・福田明英氏)

エコの先進地として インフラの新たな活用法を検討

充電インフラが整備された伊香保温泉の次なる目標は、渋川駅から現地、もしくは温泉街内での利便性を確保すること。組合でのEV車購入や、EVレンタカー事業なども検討しているそうだ。

「お客様の車を充電するだけでなく、エコカーラリースをはじめ、インフラを生かしたイベントも行うことで、先進地温泉地として新たな一面を切り拓きたいですね。伊香保温泉では、竹灯籠によるかがり火行列やカーボンオフセットモデル事業など、数多くのエコ関連の行事や取り組みを行っています。これからの観光地の浮況のキーワードは、エコとエコだと思えます。それには観光地だけではなく、旅行会社の協力も必要。今後はぜひ、EVインフラを活用した旅行商品づくりに期待したいと思います。(福田氏)



充電器導入とEVリースで 環境ビジネスの新たな可能性を開拓

アグル

山梨県

スポーツ施設管理の 受託から環境に注目

山梨県甲斐市で、自動車リース、学習塾、公共スポーツ施設管理など幅広い事業を展開するアグルは、2013年6月に、社有車としてEV軽トラックを導入同時に、市内にあるガソリンスタンドの敷地の一部を借り受けて、EV用の急速充電器1基を設置し、無料開放している。

「当社は13年4月から、市内に10カ所はある公共スポーツ施設の指定管理業務を新たに行うこととなり、施設開設用車両として環境に配慮したEVの導入を検討。地域で

のEV車両の利便性向上と、メインビジネスである自動車リースにおけるEVの広がりにも期待し、市内初のガソリンスタンドへの充電器導入を併せて実施しました(専務取締役・中川氏)

充電器の増設で 課金ビジネスの可能性も

EV軽トラック、電トラは近隣の農家や行政へのデモ用としても積極的に活用し、注目を集めている。

「今頃のEV軽トラックと充電器の導入はリースで行いましたが、購入費には国の補助金も活用できました。

さらに、設置工事費にも補助金を活用できる場合もあるので、導入を検討している企業にはメリットが大きいですね。

1軒でクルマを2、3台持っているのが当たり前という地方社会では、環境への取り組みは重要で、住民や行政の関心も年々高くなっています。EVは航続距離が短いという課題があり、ますが、自宅と地域にインフラとして充電器が完備されていけば問題はありませぬ。今後、充電器の増設を図っていく中で、充電の有料化による課金ビジネスなど、新たな可能性にも期待しています。(中川氏)



ガソリンスタンドの一角を買取り、EV軽トラックのデモコーナーと充電器を設置している。EV軽トラックは、充電した電力をパワーボックスに溜め出すことで、屋外で発電としても利用可能。



行政や観光協会と連動。無料の充電体験を通じてEVの購入検討者もサポート

阿蘇ファームランド

熊本県

**EV試乗コースにも設定
阿蘇の観光と充電の拠点に**

自然体験やドーム型の宿泊施設などが人気で、年間400万人の観光客が訪れる健康テーマパーク「阿蘇ファームランド」では、熊本県とタイアップして2011年3月、急速充電器を導入した。平日のように利用される中、無料開放しているという。「休日や観光シーズン中は、



充電器は、宿泊者専用駐車場に設置されているが、宿泊者以外も自由に利用できる。中には、EV購入を検討している人が観光協会の設備車を利用して、観光と併せて充電体験しているケースも。

混み合うこともありますが、次の方とスムーズに交替できるように、ご案内などを通じて皆様にご協力いただいています。当施設は、みなみあそ村観光協会のEV観光試乗コースにも設定されており、充電の体験を希望される方も多いため、県主導のもと、インフラ整備と利用促進の両面からEV普及が推し進められており、今後も積極的に貢献していきます」(企画広報課)



顧客サービスと環境企業としてのイメージアップ。 EVバスの導入も視野に

賛光商事 サンコー72カントリークラブ

群馬県

これからのゴルフ場に必須 わずか2カ月でスピード設置

本コース63ホール、ショートコース9ホール、合計72ホールを有する日本最大級のゴルフ場であるサンコー72カントリークラブは、2012年



充電設備については、部材を揃えることも増え、充電器の導入はクラブの運営やCSRにも一役買っているという。



3月、駐車場内に普通充電器を7基設置した。「将来的に間違いなく、電気自動車社会へ移行するという予測と、クラブメンバーの方から「マイカーのPHVへの買い換えを検討しているのだが、充電器の設置予定はあるか」と

のご相談を受け、設置を決意。これからのゴルフ場に必須の設備になると考え、その2カ月後には、設置を完了しました」(代表取締役社長、寺本氏)

音が出ない環境にやさしい EVの活用はますます広がる

1日約700人のプレーヤー、約600台のクルマの来場がある同カントリークラブでは、設置以来コースメントに充電器利用も増えている。

「廊下から100mほどに位置しているので、プレー中に充電して場路につけるのは大変便利で安心感が高いと好評。リピーターのお客様も順調に増えています。現在、充電器はメンバーには無料、ゲストには3時間500円でご利用いただいておりますが、将来的には顧客サービス向上のためにも全て無料にしたいと考えています。

ゴルフ場では音が出ないこと、環境にやさしいことは重要なポイント。以前は軽油を燃料としていたコース内のカートも、今ではほとんど電気カートになりました。当クラブでは、駅からの送迎と、コース間の移動にバスを使用していますが、今後はEVバスの導入も視野に入れており、充電器の活用範囲はますます広がるでしょう」(寺本氏)



行政や観光協会と連動。無料の充電体験を通じてEVの購入検討者もサポート

阿蘇ファームランド

熊本県

**EV試乗コースにも設定
阿蘇の観光と充電の拠点に**

自然体験やドーム型の宿泊施設などが人気で、年間400万人の観光客が訪れる健康テーマパーク「阿蘇ファームランド」では、熊本県とタイアップして2011年3月、急速充電器を導入した。平日のように利用される中、無料開放しているという。「休日や観光シーズン中は、



充電器は、宿泊者専用駐車場に設置されているが、宿泊者以外も自由に利用できる。中には、EV購入を検討している人が観光協会の設備車を利用して、観光と併せて充電体験しているケースも。

混み合うこともありますが、次の方とスムーズに交替できるように、ご案内などを通じて皆様にご協力いただいています。当施設は、みなみあそ村観光協会のEV観光試乗コースにも設定されており、充電の体験を希望される方も多いため、県主導のもと、インフラ整備と利用促進の両面からEV普及が推し進められており、今後も積極的に貢献していきます」(企画広報課)



顧客サービスと環境企業としてのイメージアップ。 EVバスの導入も視野に

賛光商事 サンコー72カントリークラブ

群馬県

これからのゴルフ場に必須 わずか2カ月でスピード設置

本コース63ホール、ショートコース9ホール、合計72ホールを有する日本最大級のゴルフ場であるサンコー72カントリークラブは、2012年



充電設備については、部材を揃えることも増え、充電器の導入はクラブの運営やCSRにも一役買っているという。



3月、駐車場内に普通充電器を7基設置した。「将来的に間違いなく、電気自動車社会へ移行するという予測と、クラブメンバーの方から「マイカーのPHVへの買い換えを検討しているのだが、充電器の設置予定はあるか」と

のご相談を受け、設置を決意。これからのゴルフ場に必須の設備になると考え、その2カ月後には、設置を完了しました」(代表取締役社長、寺本氏)

音が出ない環境にやさしい EVの活用はますます広がる

1日約700人のプレーヤー、約600台のクルマの来場がある同カントリークラブでは、設置以来コースメントに充電器利用も増えている。

「廊下から100mほどに位置しているので、プレー中に充電して場路につけるのは大変便利で安心感が高いと好評。リピーターのお客様も順調に増えています。現在、充電器はメンバーには無料、ゲストには3時間500円でご利用いただいておりますが、将来的には顧客サービス向上のためにも全て無料にしたいと考えています。

ゴルフ場では音が出ないこと、環境にやさしいことは重要なポイント。以前は軽油を燃料としていたコース内のカートも、今ではほとんど電気カートになりました。当クラブでは、駅からの送迎と、コース間の移動にバスを使用していますが、今後はEVバスの導入も視野に入れており、充電器の活用範囲はますます広がるでしょう」(寺本氏)



顧客サービスと環境企業としてのイメージアップ。 EVバスの導入も視野に

賛光商事 サンコー72カントリークラブ

群馬県

これからのゴルフ場に必須 わずか2カ月でスピード設置

本コース63ホール、ショートコース9ホール、合計72ホールを有する日本最大級のゴルフ場であるサンコー72カントリークラブは、2012年



充電設備については、部材を揃えることも増え、充電器の導入はクラブの運営やCSRにも一役買っているという。



3月、駐車場内に普通充電器を7基設置した。「将来的に間違いなく、電気自動車社会へ移行するという予測と、クラブメンバーの方から「マイカーのPHVへの買い換えを検討しているのだが、充電器の設置予定はあるか」と

のご相談を受け、設置を決意。これからのゴルフ場に必須の設備になると考え、その2カ月後には、設置を完了しました」(代表取締役社長、寺本氏)

音が出ない環境にやさしい EVの活用はますます広がる

1日約700人のプレーヤー、約600台のクルマの来場がある同カントリークラブでは、設置以来コースメントに充電器利用も増えている。

「廊下から100mほどに位置しているので、プレー中に充電して場路につけるのは大変便利で安心感が高いと好評。リピーターのお客様も順調に増えています。現在、充電器はメンバーには無料、ゲストには3時間500円でご利用いただいておりますが、将来的には顧客サービス向上のためにも全て無料にしたいと考えています。

ゴルフ場では音が出ないこと、環境にやさしいことは重要なポイント。以前は軽油を燃料としていたコース内のカートも、今ではほとんど電気カートになりました。当クラブでは、駅からの送迎と、コース間の移動にバスを使用していますが、今後はEVバスの導入も視野に入れており、充電器の活用範囲はますます広がるでしょう」(寺本氏)

15基を無料開放。EV・PHVレンタカーで移動する観光客の利便性を向上

沖縄美ら海水族館

沖縄県



充電の中間地点として 月60台ほどが利用

沖縄の大人気観光スポット「沖縄美ら海水族館」を擁する海洋博公園は、2012年に普通充電器を15基導入した。水族館のサービスの一環として、来園者に無料開放している。送迎到着後、EV・PHVレンタカーを利用する観光客を中心に、昨年は月平均60台ほど利用されていたという。各地から来る観光客の多くがレンタカーを移動手段として選んで、EV・PHV普及

に積極的な沖縄県では、充電インフラも整備している。送迎から2時間以上離れた距離に位置する海洋博公園までの間にも充電スポットが充実しているうえ、公園付近にも急速充電器を導入している施設がある。海洋博公園に訪れる人の滞在時間は平均2〜3時間ほどだが、観光客中に効率良く充電をした人が多くいるという。インフラ体制が整った観光地として、さらなるEV・PHV普及につながりそうだ。

充電器は、海洋博公園の立体駐車場に設置されている。沖縄県美ら水でも人気のEV・PHVの乗り入れ件数も万全だ。



充電中の施設利用で観光事業も活性化。 市外からの来訪者の増加も

青森県 むつ市営駐車場

青森県

昨年度と比べて利用は倍増
食事やおみやげ販売にも貢献

恐山、薬師温泉などの人気観光地を誇る青森県むつ市は、平成23年度より3カ年計画の整備事業とし



国の補助金を活用し 観光地への導入を強化

「むつ市イベント広場駐車場」「むつ市川内庁舎駐車場」に続き、今年度中に「奥薬師温泉公園駐車場」に充電設備を設置することで整備計画を完了する予定の同市。

「充電器の設置にはこれまでも国の補助金を活用してきました。さらに、適用範囲が購入費だけでなく工事費にも広がり、設置費全体がコストダウンできるのはメリットが大きいですね。むつ市街地から、人気観光地の恐山、薬師温泉をEVで周遊するには、途中の山道で電気消費量が大きいことが課題でした。各観光地の駐車場に充電器を設置することで、安心してドライブができるようになり、EVでの来訪者増加にも期待できます」（新谷氏）



街と一体化したインフラ活用で住民の利便性が向上。新たな街のシンボルに

千葉県 柏の葉キャンパス

誰でも気軽に利用できる
EVカーシェアリング

つくばエクスプレス（柏の葉キャンパス）駅前に位置するマンション「パークシティ柏の葉キャンパス」では、新しい街づくりの一環として、EVカーシェアリングに取り組んでいる。マンションのすぐそばにあるコインパーキングの部をカーシェア専用駐車場にして併せて充電設備も設置。住民はもちろん、会員になれば誰でも利用できるという。



35〜44歳の人口が最も多い千葉県柏市では、車庫が少い。EVを乗りこえるEVカーシェアリングが人気。車の3割はEVを乗りこえているが、フル稼働している日も多く、追加導入を求められているという。

「5つの拠点を設け、片道乗り捨て可能な、街乗り、スタイリッシュなデザイン。15分単位の価格設定をしているため、気軽に利用できる」と好評で、幼稚園の送迎や買い物などに使われる方も多くいます。現在、一般利用者向けの急速充電器の導入も検討しています。が、マンションの住民がEVに触れる機会が増えれば、街全体でのEVもさらに普及することでしょう（三井不動産柏の葉キャンパスシテイプロジェクト推進部・浦野氏）

Report 16 道の駅

環境にやさしい観光拠点へ。充電中の食事や買い物増で高い設置メリットも

道の駅 ふじおやま

静岡県

充電地点として最適な立地
シニア利用者にも好評

富士スピードウェイや豊かな自然に囲まれた富士霊園などの観光スポットを持つ静岡県駿東郡小山町では、町内2つの道の駅に2013年4月、EV用の急速充電器を各1基ずつ設置した。

「小山町の町制100周年記念で、13年度末までに充電器500基を設置するという静岡県ビジョンに賛同し、県内初の道の駅への設置を実現しました。世界遺産に登録された富士山を臨み、環境にやさしい観

光拠点を目指しています」（小山町役場 企画総務部・徳谷氏）

利用は無料。現在、道の駅におよぶ場合、月60台程度の利用があるという。

「充電は、食事や買い物をしていればあつという間。充電目的で立ち寄り、滞在時間中に施設を活用してもらえれば設置メリットは高いですね。東京、神奈川からのお客様が8割以上なので、充電地点としても最適な立地。シニアのお客様は環境意識が高く、EVや充電器への関心も高いようです」（道の駅ふじおやま 支配人兼駅長・武藤氏）



充電器の設置は導入費には、国の補助金を活用し、導入に掛かったコストも削減も図ったという。



EV・PHV充電インフラケーススタディ 業種別導入事例

17

一般社団法人 次世代自動車振興センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-6-12大手町建物虎ノ門ビル2階

<http://www.cev-pc.or.jp>